

所沢市立教育センター「所報」

いっしょだ

授業が変わり、学校を変えて、子どもを伸ばそう

所沢市の教育の理念

みんなが持っている三つの「宝」を
掘り起こして大きく育てます
心身のたくましさ
未来を拓く知恵
ふるさと所沢を愛する心



学び創造アクティブプラン 研究校支援研修 其の2

＜わかる授業づくり研修会＞

日時:1月16日(水) 会場:上山口中学校

「生徒にわかる喜びを味わわせるための授業づくり」というテーマで国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、自立活動の授業公開が行われ、**まとめとふり返りの工夫**を視点を「生徒がわかる授業」を実現するための研究を発表しました。その後、国立教育政策研究所総括研究官 山森光陽先生に御講演いただき、学力に影響を与える要因や研究との関わりについてデータをもとにわかりやすく御指導いただきました。



＜ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり研修会＞

日時:1月24日(木) 会場:泉小学校

『『わかった』『できた』『おもしろい』が実感できる学習指導の追究』というテーマで1年、3年、5年の算数の授業公開が行われ、**焦点化、可視化、共有化等ユニバーサルデザインの視点**での指導の手立てとその活用について研究し発表しました。その後、明星大学教授 小貫悟先生に御講演いただき、授業をUD化するための視点やそれに基づく授業の構造と展開の工夫等について具体的に御指導いただきました。



＜外国語活動授業づくり研修会＞

日時:1月30日(水) 会場:伸栄小学校

「児童のコミュニケーション能力を高める指導法の研究～コミュニケーションの意欲を高める外国語活動～」というテーマで全学級の授業公開が行われ、伝え合う喜びを実感できる活動について多様な手立てを研究し発表しました。

その後、埼玉大学教授 及川賢先生に、教材づくりのアイデアをお示しいただきながら、他教科との関連や小中学校の連携等、多岐に渡り御指導いただきました。



1月の研修会より

＜ICT活用研修会＞

11日(金)所沢中学校、18日(金)並木小学校において電子黒板やタブレット活用、小学校プログラミング教育の実践のための研修会を行いました。授業公開や、操作体験の後、十文字学園女子大学教授 安達一寿先生にICTの効果的な活用について御指導いただきました。



＜感想より＞

- ・ICTの活用は生徒の表現力を伸ばす上で有効であるとわかった。
- ・プログラミング教材の操作方法や授業の進め方を体験することができ、よく理解できた。

＜外国語活動の教科化に向けた研修会＞

24日(木)、国立教育政策研究所教育課程調査官 直山木綿子先生に御講演いただき、新学習指導要領の全面実施に向けて、今からできることについて、具体的な指導の在り方等最新の情報とともに御指導いただきました。



＜感想より＞

- ・とても面白く、分かりやすく、実践的な内容でした。
- ・スモールトークの具体的な方法を教えてください、多くの学びを得ることができました。

2年次教員研修・ミドルリーダー研修員研修

それぞれ1年間の研修のまとめとして、参加感想を提出してもらいましたのでいくつか紹介します。

- 研修内容が深く、2年目という自覚とともに責任を大きく感じた1年でした。
- 研修に参加することにより、今までの自分を振り返り、改善することができました。
- 自分で教科を選択することができ、苦手とする教科指導の理解を深めることができました。

- 「学び創造アクティブプラン」の理解を深めるとともに、自分の授業で課題となる部分を見つめて改善へとつなげることができました。
- 他市から異動してきて、このような手厚い研修があることがよかったです。今後は校内の中堅的な立場として具体的な研修を受けていきたいです。





2月16日(土)の研究員等研究発表会にぜひ御参加を!

教育センターの研究員による研究発表会及び学び創造アクティブプラン研究委託校研究発表会が行われます。下の表にある各研究部による研究成果の発表が行われます。講演会も予定されていますので、多くの皆様の参加をお待ちしております!

昨年度の発表会、講演会の様子です。

	＜研究部＞ 指 導 者		
授業実践研究部	＜国語科＞ ＜外国語活動・外国語科＞	＜社会科＞	＜理科＞ ＜特別活動＞
専門研究部	＜国語科＞	大妻女子大学	教授 樺山 敏郎 先生
	＜算数科＞	東京学芸大学	教授 中村 光一 先生
	＜図画工作科＞	※武蔵野美術大学	教授 三澤 一実 先生
	＜外国語活動・外国語科＞	※東京家政大学	教授 太田 洋 先生
	＜道徳科＞	帝京大学大学院	教授 赤堀 博行 先生
委託研究部	これからのコンピュータネットワーク調査活用研究協議会 ※十文字学園女子大学 教授 安達 一寿 先生		
事務研究部	＜学校事務＞		
学び創造アクティブプラン学力向上推進事業研究委託校 研究発表会 9:30～10:30			



※印の指導者は、当日御指導いただきます。

* 時程等の詳細は過日配付いたしましたリーフレットで御確認ください。

* 参加のお申し込みは、教育センターホームページからお願いいたします。

11:05～ 講演会(研究員合同研修会～主体的・対話的で深い学びのための研修会③)

指導者 十文字学園女子大学 教授 富山哲也 先生

演題 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

新学習指導要領実施に向けて(特別の教科 道徳)



～特別の教科 道徳(道徳科)の中学校の教科書が決まりました～

平成31年度からの中学校における道の実施に向け、教育委員会の採択により所沢市で使用する「特別の教科 道徳」の教科書が、日本文教出版の「中学道徳 あすを生きる」に決定しました。採択理由につきましては、所沢市のホームページに「H31年度使用中学校教科用図書(道徳科)の採択理由」として掲載されていますので、御覧ください。

また、埼玉県教育委員会から「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料(道徳)」「平成29年3月」「埼玉県中学校教育課程指導・評価資料(道徳)」「平成30年3月」「埼玉県小学校教育課程編成要領」「平成30年3月」「埼玉県中学校教育課程編成要領」「平成30年3月」が発行されておりますので、来年度に向け、諸計画作成や授業づくり等で御活用ください。

さて、ここで道徳の特別の教科化で変わることをご確認したいと思います。所報323号でもお伝えしましたが、大きく変わることとして、先ず「検定教科書が導入されること」次に、「道徳科における児童生徒の評価を指導要録等に記録を残すこと」そして、「考え、議論する道徳への授業改善」の3点です。

一方で変わらないことは、「道徳教育は全教育活動を通じて行うこと」、「道徳教育の要である道徳科は年間35時間(小1は34時間)以上行うこと」、「道徳教育及び道徳科の目的は道徳性を養うこと」等です。

「変わること」として「考え、議論する道徳への授業改善」と示しましたが、この言葉については十分に配慮する必要があります。「児童生徒に考え議論させるためには教材の結末は明らかにしない方がいい」、「議論させるためには、少人数での話し合いを取り入れるべきだ」という指導の工夫に対する考えをよく耳にします。もちろんこれらも一定の効果があるものです。しかし、大切なのは学習指導要領にある通り「発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』」「議論する道徳」への転換を図る」ということです。どのような指導の工夫をしたら、児童生徒が自分自身の問題として真剣に考え、その上で他者の意見を聞きたい、知りたいと思って議論を始めるのか、当然発達段階や各学級の児童生徒の実態によって違います。授業者が明確な指導観をもち、目の前の子どもの姿から、多様な視点で授業改善について考えていくことが何より重要です。